六一八七　［小物］華なる者は、一氣の英華なり、
六一八八　　液なる者は、大物の滋液なり、
*六一八九（復元）液無ければ則ち體成らず、
*六一九〇（復元）華無ければ則ち氣見れず、
*六一九一（復元）是を以て華なる者は易氣の發する所なり、
*六一九二（復元）　液なる者は会體の融する所なり、
六一九三　是を以て天地轉持と。水燥日影とは。性體相い合す。
六一九四　天地轉持は物を開く、
六一九五　日影水燥は氣を交う、
六一九六　小物は以て其の間に生化す。是を以て
六一九七　大小の物は。同じく聚散解結す。
*六一九八　聚散解結は。緯に露すれば則ち靜なり、
六一九九　　經に露すれば則ち動なり、
六二〇〇　氣聚り質結んで、物能く生ず、
六二〇一　氣散じ質解けて、物能く化す、
*六二〇二　生化は何爲れぞ廼ち一動一植せん。是れ之を小物と爲す。
六二〇三　　大は小を容る、
六二〇四　　常は變を容る、
六二〇五　　小なる者は麁なり、往來して體を換える、

(PB 414)

六二〇六　大なる者は精なり、　生化して體を一にす、
六二〇七　麁を以て精を徵す、
六二〇八　常を以て變を察す、
六二〇九　此れ猶お彼れのごとし、
六二一〇　彼れ猶お此れのごとし、
六二一一　是を以て散結して常を持する者は、　生化の端を没す、
六二一二　散結して體を換える者は、　生化の端を露す、
*六二一三　是を以て金石は攸久に成壞す、
六二一四　雲雨は倏忽に聚散す、
六二一五　皆な道は異にして居は同じ。　(I 446a)
六二一六　動なる者は有意なり、
六二一七　植なる者は無意なり、
六二一八　有意なれば則ち能く動なり、
六二一九　無意なれば則ち能く靜なり、　而して
六二二〇　動は能く作止す、
六二二一　植は能く榮枯す、　故に
*六二二二　其の之に成る在るや、　氣は聚散し、　物は解結す、
*六二二三　其の之に成る在るや、　動は作止し、　植は榮枯す、
六二二四　作止の變に至りては。　則ち　(PB 415)

六二二五　剖くに随いて體　各　性を具す。
六二二六　體性は愈いよ分れて。而して態は愈いよ同じからざるなり。
*六二二七　是を以て植は靜を以て形體の變を極む、
*六二二八　動は動を以て動作の變を極む、
六二二九　天行は持に於て止る、
六二三〇　地行は轉に於て止る、
六二三一　氣轉象運は、圓を以て行く、
六二三二　雲騰雨墜は、直を以て行く、
六二三三　水は斜に流る、潮は斜に遡る、
六二三四　鳥は氣を御す、魚は水に游ぶ、
六二三五　獸は地を走る、龜は水に泳ぐ、
六二三六　蚤は能く跳ぶ、虱は能く跂う、
六二三七　蟹は横行す、蝦は卻飛す、
六二三八　人は立行す、螺は倒行す、
六二三九　蛛は絲を走る、鼈は土を穿つ、
*六二四〇　水母は唯だ浮く、海參は唯だ轉ず、
*六二四一　蜈蚣は多足を得て行き、反鼻は無足を以て行く、
*六二四二　獸は四腳にして行く、人は雙腳にして歩く、行の變を極むるなり、
六二四三　日月は轉に居り、雲烟は持に居る、

六二四四　植は土に居し、　動は氣に居す、
六二四五　魚龍は水に居し、　藻苔は石に居す、
六二四六　獸は伏し、　人は臥す、
六二四七　鳥は枝を掴み、　蛾は壁に點す、
六二四八　鳧鷖は能く浮び、　魚鼈は能く潛む、
六二四九　物は正しく處して、　伏翼倒懸す、
六二五〇　物は夜休みて、　鴟鴨は晝睡る、　止の變を極むるなり、
*六二五一−五二　故に生生の跡は。　金石は自から凝し、　變化の由る所を隱す、
六二五三　螺蛤は交わらず、　感應の跡する所を没す、
六二五四　華實は已に見る、　牝牡最も著るし、
六二五五−五六　跡に就き其の變を極むるに。　動に牝牡有り、
六二五七　植は華實有り、
六二五八　動は卵胎を分つ、
六二五九−六〇　植は子根を分つ、　而して動植に氣化有り、
六二六一　體化有り、　是を以て
六二六二　植は或いは實を結ぶ。
六二六三　或いは子無し。
六二六四　或いは瓤を肉中に生ず。
六二六五　或いは實を皮中に成す。

(PB 416)

六二六六　或いは根より生ず、
六二六七　或いは華より結ぶ。
六二六八　麻は華と子を分ち。
六二六九　紫檀は葉と子と一にす。
六二七〇　水物の薄感。羽族の薄交。
六二七一　魚は一胎數萬。人は數交一孕なり。
六二七二　鳥は能く卵に伏し。魚は卵に伏せず。
六二七三　蟷螂は子を螵蛸に結び。蜘蛛は兒を嚢中に畜う。
*六二七四　細に之を觀れば則ち或いは子を抱く者有り。或いは卵を負う者有り。

(I 446b)